

「夏期奉納試斬会（その2）」



今回も会報誌は、試し斬り初参加の会員さんの感想記事の続きを掲載させていただきます。

元新



日本刀に憧れ、この田宮流神明会の門を叩いたのが今年の3月。HPの試斬会の動画を見たのがきっかけでした。その憧れの試斬会に初めて参加させていただきました。7月の茹だるような暑さの中、先生や先輩方の美しい所作・刃筋、仲間たちの堂々とした姿勢にとっても感動していると、いよいよ自分の番に。

初めて持たせていただいた日本刀はズシリと重く、刀身の質感、柄の手触り、ひんやりとした感触を今もはっきりと覚えております。初太刀は緊張のあまり、あまり記憶にありません。二の太刀、三の太刀と回数を重ねていくうちに徐々に音、手応えを感じられるようになってきました。しかし、その音や手応えは、自分の狙ったものとはかけ離れているものばかりで、改めて日頃の素振りの重要性和自分の未熟さを痛感いたしました。合計四本の巻藁を斬らせていただきましたが、その後しばらく手の震えが止まりませんでした。このような真剣での試斬会に参加させて頂けたことで、「斬」と「打」の違いを実感でき、とても勉強になりました。最後に、試斬会の企画をして下さった先生をはじめ、畳表の手配から運搬をしていただきました三宅さん、会場の手配をしていただきました井上さんに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

三富 肇 剣士



私はこの試斬会に参加させて頂き、真剣で畳表を切らせていただきました。高校1年生ではなかなか体験でない、貴重な体験でした。いつも振っている居合刀とは違う真剣で、持った時の緊張感は今でも忘れられません。真剣はとても重く、振り上げた際のどっしりとした感覚は慣れていないせいか、少し

ヨタヨタとした情けない姿になってしまいました。振り下ろした際に、サクッと切れた感覚がして『切れた!』と喜んでいるのも束の間、勢いと重さに負けて、地面にぶつかるまで剣を止められませんでした。

他の方々が切られているのを見ると、ヨタヨタしておらず、綺麗に切られていて、みなさん終わりのきちゃんと止められていて、すごい、、、！と感激しました。

これからも居合道の稽古に励むのはもちろん、このように真剣を持った際でもうまく扱えるように練習を積み重ねていきたいと思います。

素敵な機会を与えてくださり、ありがとうございました！

三富 沙藍 剣士